

平成21年度小牧市休日急病診療所運営協議会

【日時】平成21年11月20日（金曜日）

午後2時～午後3時

【場所】保健センター 大会議室

【出席者】

《委員》船橋重喜、友松 武、菱田直基、平尾亮人、舟橋國博、酒井義仁
福澤 広、宮澤孝彦、末永裕之、村上秀斎、石黒行雄、西川昌登

《事務局》舟橋次長、江崎所長、山中補佐、佐橋係長、山中主査

【議事録】

あいさつ

舟橋次長

本日はご多忙中にも関わらず当協議会にご出席いただきありがとうございます。8月7日に第1回を開催し、休日急病診療所の経営改善について問題提起をさせていただきました。それ以後委員の皆様の意見を参考にさせていただきながら、医師会・歯科医師会・薬剤師会の三師会と協議を重ねてまいりました。各会長のご理解とご協力を得て、改善計画をとりまとめることができました。改めて御礼を申し上げます。

また、新型インフルエンザのまん延状態が続いていますが、妊婦の方等から準備の整った医療機関での接種が始まりましたが、いち早く小牧市独自の接種補助制度を設け、今後予想される大流行を防止したいと考えております。休日急病診療所におけるインフルエンザ対策について、前回の会議ではインフルに特化した診療所での意見もいただきましたが、その後の受診状況などから、11月1日より受付時間を延長させていただくこととしました。内容については、また後ほどご報告させていただきます。

本日もご審議よろしく願いいたします。

会 長

お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。過去2回の協議会では、休診の経営改善について協議されました。全国的に見直しがなされていますが、当診療所の問題についてもこのような改善策を模索するのは当然のことではないかと考えております。しかし、一方で休診の本来の目的である市民の皆さんの健康を守っていくという原点は決して忘れてはいけません。その上に立っていろいろと考えていかなければならないと思っております。そういう意味で、今回の新型インフルエンザのまん延に伴ってそれに

対応するため、休診の受付時間を延長して午後8時まで行うことはたいへん意義のあることと思います。やや下火かと思いますが、年末年始の対応をするためにも当分の間この体制を続けていきたいと思っております。

本日は十分な意見交換を行って、新しい休診の体制作りに取り組んでいきたい、そしてより一層充実したものにしていきたいと考えておりますのでよろしく申し上げます。

2 報告

(1) 休日急病診療所の経営改善調整結果について

(報告者) 事務局

質疑応答

委員

外科医及び歯科医は通常単価が5%の減額ということですが、外科の先生も外科だけをみていたわけですが、本当なら患者さんを待たせないという点からすると外科の先生も日頃は内科の患者さんを診ているわけです。小牧市ということで減額なら割り切る事もできるのですが、同時間同じようにやって患者が少ないということで減額ということになると皆さん説得ができるのかということですが。

会長

多くの内科の先生方も5%減らしてもらってもいいという意見ではなかったですかね。

委員

内科が死守したわけでもなんでもありませんよ。内科も一律5%減額でいいと思っております。

委員

減額するなら同じレベルで、外科の医師も今まであまり手伝わなかったということもあるかもしれませんが、やはり忙しいときは外科も内科を手伝うという原則でやれば、それで済むんじゃないですか。

委員

そういつて手伝ってほしいということで一律全員内科も外科も5%減のほ

うがしこりを残さないということですね。僕らが強引に内科だけを死守したというようなことでなく全員が5%減でいいと思います。

事務局

今回市のほうから内科・小児科について現状維持ということで当初考えていた理由は、私どもの勝手な考え方かもしれませんが、内科・小児科の先生方は多くの患者を見ていただいているということで、それなりの報酬で臨むべきであろうという考えで検討してきたということです。委員の方から外科の先生も内科の方を応援していただくという話もあり、内科の先生も一律5%下げたほうが医師会全体としてもおさまりがよいというご提案であれば、再度調整を進めさせていただきたいと思います。

委員

日本中の公立も民間病院でも日曜祝日行っていて、大抵両方とも同じ値段でやっているはずなんです。

委員

忙しいから加算するというなら、片方するということはあります。

委員

へんな気を使って協議されるより、市の財政状況が厳しいから5%減で涙をのんでくれた方がしこりが残らない、医師会の中でも。中途半端に気を使ってもらうと後で困ります。

会長

この会で決まったことであれば文句は言えないと思いますが、医師会の中で協議していると意見がでてくるんですが。唯一の決定機関の中で決まったといえ言わないと思いますけど、どうですか。

委員

運営委員会の中でも話をして内科・小児科の意見としても5%減額でもいいとまとまっていたので、内科医も5%減額でいいと思います。

事務局

この会の中でとりまとめがいただければ内科・小児科も5%下げさせていただくという事で統一をさせてもらいたいと思います。

委員

外科の医師も外科だけではなくて、忙しいときは内科の診察室に行ってもらって内科を診るということにしないと、ここだけ平等で診ないというのはまずいと思うが。

会長

これに関して、今回インフルエンザで発熱対応が多いものですから外科医も内科の診察室で診察してくれる。外科の患者がきたら外科の診察室に行くというふうでやっていますが、発熱患者は診ることができない人がいますかと聞いたら3名ありました。これは整形外科の先生ですが整形外科に特化して診療しているので発熱患者に対しては責任をもって診ることができない。今回の休診の時間延長で発熱患者を診るという間は降りていただく。13名のうち3名は降りていただいたのですが、ただその先生たちも今回は一切やらなくていいと、それは言えないですから、発熱患者の対応が減ってきたときには加わってもらおうということですが、アンバランスがありその辺りを思案しているところで難しいところがありますが協議してもらいたいところです。医師会でもいろいろな意見がでております。外科医といっても内科も表号している医療機関もありまして、していないところもありますが、協力していただける。どうするかをまた医師会で協議していき、緊急事態のときには内科も診る、ただ、小児科とかは苦手な部分もある方もあると思います。

委員

例えばどうしても発熱患者は診れないという先生があるのはしかたがありません。一般的に多くの先生は協力してもいいという意見が大半なので、内科の患者を待合室で待たせておくよりも外科の方でも内科を診るということでもいいと思います。

事務局

貴重なご意見をありがとうございます。会長の方からもありましたが、医師会の方で対応についてとりまとめをお願いできたらありがたいと思いますが。

会長

5%一律に下げていくことはそれでいいわけですね。

事務局

外科の先生の内科の応援の対応についてですけど。

委員

それは医師会の先生方が決められることで、市のほうがどうということはやろしいのではないのでしょうか。この会に出てこられる先生方がそういうふうに言っておられるわけだから、医師会の中でそういう風な形で忙しいときは手伝いましょうというそういうくらいの取り決めで済んでいくのではないかと想像します。いかがでしょう。

事務局

内科・小児科の先生方も5%引き下げて外科・歯科の先生と同額とさせていただきますというご了解をいただければそのようにさせていただきます。

委員

外科の先生が応援するという事になっていて整形外科の先生は応援できないということで協力できない先生を巻き込むのはいいのか、例えば10人以上の待ちになったら応援するというような基準がないとトラブルがおこったりして会長自身を取りまとめるのが難しいのではないのでしょうか。市としては内科・小児科は多くの患者を診るので財政状況は厳しくてもそのような評価をしていくべきではないかという考えでした。一定程度を超えたら加算する考え方もあります。

委員

一律5%カットでよいのではないですか。

委員

その時間拘束されるのは同じなので加算はいいので5%カットでいいということでは。忙しいときは応援してくださいということで、それは医師会にお任せしておけばいいのではないですか。

会長

歯科医師会、薬剤師会はどうですか。

委員

歯科医師会としては会員に了解いただいたものと考えています。

委員

薬剤師会としても会員に了解いただいたものと考えています。

報告

(2) 休日急病診療所の診療（受付）時間延長について
＝新型インフルエンザに対応するために＝
（報告者） 事務局

質疑応答

会長

11月になってから僕もやって、結構あると思ったがその後のびていません。

事務局

受付時間延長についてHPに掲載しました。

委員

月曜日に患者数が増加しているの、新聞に掲載してPRしてもらいたいのではないですか。

委員

先週、三重と愛知県が下がったと載っていましたが、たしかに先週は下がってきたかと思いましたが地域によっては下がっていません。

タミフルが不足しているというようなことが載っていましたが、調べるとやはり少ない。ここは大丈夫ですか。

委員

まだカプセルもドライシロップもあります。今のところはいいだろうと思います。

会長

年末年始があるので心配ですが。

委員

年末年始についても対応できると思います。リレンザの確保に努めたい。

会長

県のほうが備蓄しているとかはどうですか。

委員

出せるとは思いますが。不足するような事態は起こさないようにしていると思います。

会長

この問題についてはいかがでしょうか。

委員

リレンザが足りないのではないかと、なくなった場合どうしたらいいかを医師会だけではなんともならないので考えていかなければいけないのではないのでしょうか。県からはどういうルートでどのように卸してもらえるのですか。

委員

県で備蓄しているわけではなく、薬の卸しに預けてあります。県が卸しに働きかけるとしています。県は新型インフルエンザ対策室が担当となります。

会長

12月20日か23日の休診の在庫の状況を報告してください。

委員

わかりました。今回のタミフルはメーカー側のことで、在庫がないということではなく注文があれば流せます。

会長

他にご意見ありますか。

意見もないようなので、これで休日急病診療所運営協議会を終了します。